

すみきしゃ 角記者が行く！

番外編

～リハビリスタッフの仕事内容～

令和3年3月15日



1月号の対談企画第5弾で、福田療法部主任のインタビューを行いました。今回は番外編として、福田主任をモデルにケアヴィラ宝塚のリハビリスタッフの仕事内容にスポットをあてた密着取材の様子をご紹介します。

リハビリ



リハビリスタッフの仕事として、一番に皆さんが思い浮かべるのは、やはりリハビリでしょうか？ゲスト様やご家族様のニーズに合わせて、プログラムを立案し、リハビリを行います。

担当者会議



その人に合わせた介護やリハビリが行えるよう、他職種としっかり情報共有をしています。体の状態が良くなれば、それに合わせて介助方法を変更する必要がある為、情報提供を行います。

自宅訪問



入所前後や退所前後に、自宅訪問を行います。ゲスト様が生活されている環境を確認し、より効果的なリハビリを提供します。

カンファレンス



ご家族様に、ゲスト様の様子やリハビリの進捗状況を説明します。ご家族様に安心して頂けるよう、計画書を使用し丁寧な説明を心がけています。

福祉用具選定



車椅子や歩行器、リフトなど、福祉用具の選定を行います。ゲスト様の体に合った福祉用具を提供出来るよう、各業者と連携を図ります。

ミールラウンド



高齢になってくると、飲み込む力も弱ってくる事がある為、他職種と協同しラウンドします。言語聴覚士は飲み込みの評価、作業療法士は食具の評価、理学療法士は姿勢の評価などを行います。

チームケアの推進



ゲスト様と最も関わる機会が多いのは介護士です。専門職の視点から介護士に介助方法のレクチャーを行います。その人に適した介助をする事で、より身体機能が維持・向上しやすくなります。

姿勢のチェック



普段過ごされている様子を見て、姿勢が傾いていないか？危なくないか？等の評価を行います。まっすぐ座る事で、食事も食べやすくなり、床ずれもできにくくなります。



リハビリスタッフの仕事と言えば、体を動かす事をイメージされる方が多いと思います。実際は、事務仕事まで意外と多岐にわたっています。リハビリ計画書の作成や、カンファレンスの準備などは、パソコンの前に座って作業を行います。

令和3年11月からは、厚労省へデータを提出し、そのフィードバックを受け、より質の高いリハビリを提供できるよう、リハビリの情報をもとめる作業も行っています。

リハビリ3職種とは？

理学療法士 (PT)

立つ・座る・歩くなど、基本的な動作のトレーニングを行います。

作業療法士 (OT)

トイレに行く・お箸を使う・趣味の編み物を行うなど、その人らしく過ごせるよう支援します。

言語聴覚士 (ST)

飲み込む能力の維持・改善や、脳卒中などが原因で言葉が出にくくなった人のトレーニングを行います。

感染症対策について

リハビリスタッフは、ゲスト様と接する機会が多い為、感染症対策には特に力を入れています。



マスクやゴーグル、消毒液は常に身に付けています。

1回20分のリハビリの間に、手指消毒を5~6回実施し、感染防止に努めています。